平成２８年度　全国学力・学習状況調査

（平成２８年４月１９日　実施）

高石市立小・中学校

調査結果概要

平成２８年１０月

高石市教育委員会

平成２８度全国学力・学習状況調査　**学力調査の結果概要**　平成２８年４月１９日実施

調査の概要

（1）調査の目的

ア　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ　各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

ウ　以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査内容

Ⅰ…教科に関する調査　　小学校：国語Ａ・算数Ａ　（主として「知識」に関する問題）
国語Ｂ・算数Ｂ　（主として「活用」に関する問題）

中学校：国語Ａ・数学Ａ　（主として「知識」に関する問題）
国語Ｂ・数学Ｂ　（主として「活用」に関する問題）

Ⅱ…アンケート調査　　児童生徒対象・学校対象

（3）調査対象

小学校第６学年（高石市：７校　児童数：５２２人）　中学校第３学年（高石市：３校　生徒数：５５０人）

（4）調査実施日

平成２８年４月１９日（火）

（5）調査結果の取扱いについて

○　平成２８年度調査は、全校調査で行われた。

○　本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。

○　本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

平成２８年度　本市の校種・教科・区分別正答率

小学校		平均正答率		
		高石市（公立）	大阪府（公立）	全国（公立）
国語	Ａ区分	68.7	71.3	72.9
	Ｂ区分	51.3	55.4	57.8
算数	Ａ区分	74.5	76.9	77.6
	Ｂ区分	43.0	45.8	47.2

中学校		平均正答率		
		高石市（公立）	大阪府（公立）	全国（公立）
国語	Ａ区分	70.5	73.5	75.6
	Ｂ区分	59.3	63.3	66.5
数学	Ａ区分	58.9	61.7	62.2
	Ｂ区分	40.4	43.1	44.1

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

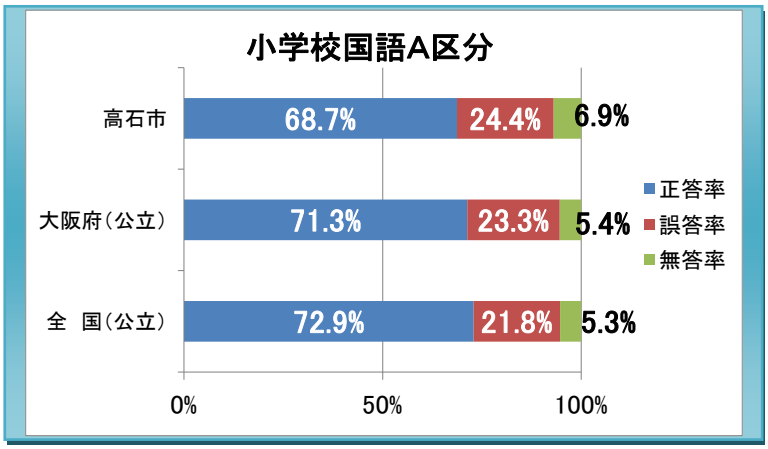
平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

◇小学校では、国語Ａ区分（主として「知識」に関する問題）・Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）、算数Ａ・Ｂ区分ともに、大阪府平均・全国平均を下回る結果です。

◇中学校では、国語Ａ区分（主として「知識」に関する問題）・Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）、数学Ａ・Ｂ区分ともに、大阪府平均・全国平均を下回る結果です。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要　【小学校】

小学校国語（Ａ区分）結果から見えてくる課題



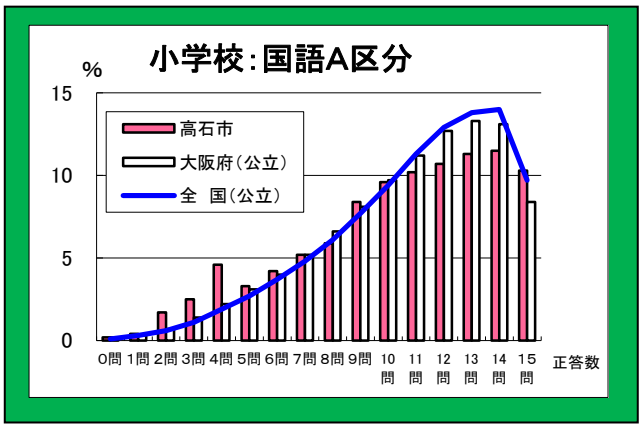
Ａ区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が ７２.９％であるのに対し、高石市は６８.７％であり、４.２ポイント下回った。

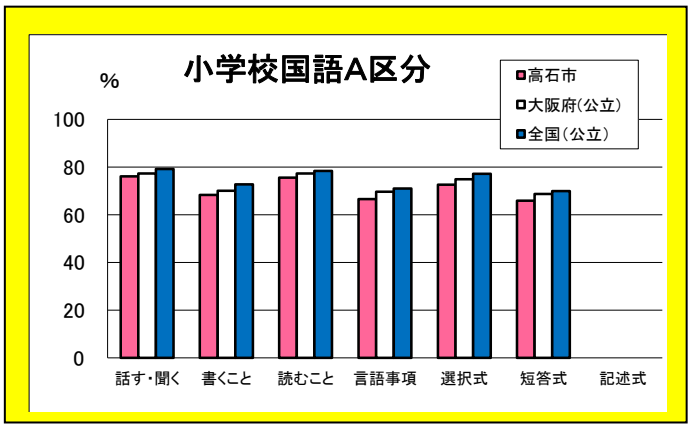
◆大阪府の平均正答率は、７１.３％であり、２.６ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より１.６ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略標記しています。

Ａ区分に見られる傾向について

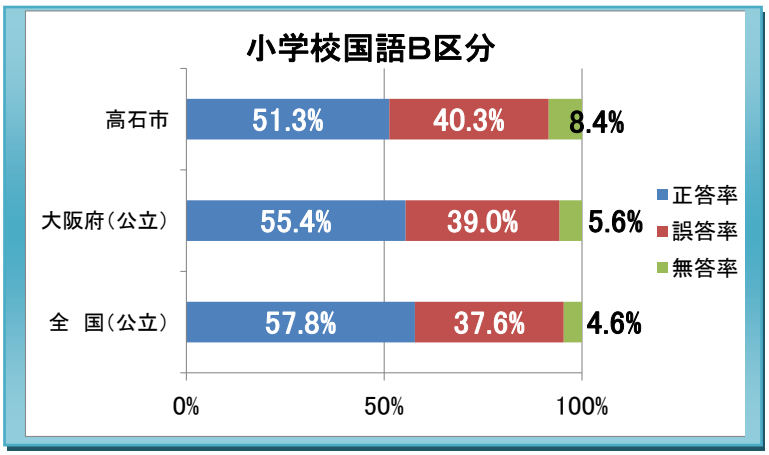
◆Ａ区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、１５問全問正答した人の割合は、全国よりも多くなっていますが、０～７問正答した人の割合は、全国よりも多くなっており、依然として基礎・基本の定着に課題があります。

◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。しかし、「読むこと」の領域では、昨年度と比べて全国との差が縮まっており、一定の成果が見られます。

◆設問別にみると、「目的に応じて、図と表を関係付けて読む力」をみる問題では、正答率が全国との差が小さく、一定の改善が見られます。しかし、その他の設問では、正答率が全国よりも低い傾向がみられます。特に、漢字の読み方、書き方を問う問題６問のうち、３問において、正答率が全国との差が大きく、「基礎的な漢字を読み書きする力」に課題があります。

◆無答率については、全国よりも数値が高くなっております。

小学校国語（Ｂ区分）結果から見えてくる課題



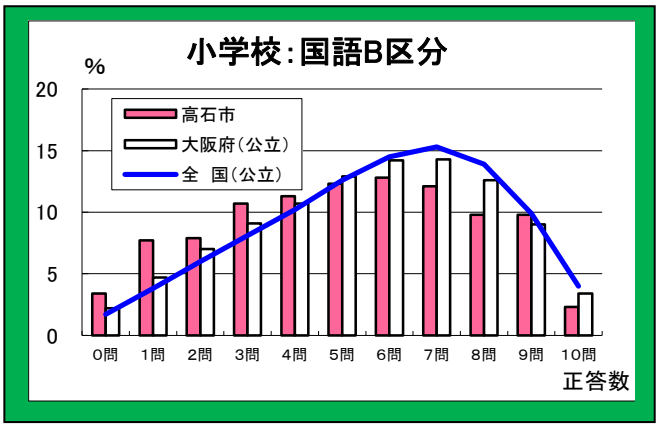
Ｂ区分問題（主として「活用」に関すること）

◆全国の平均正答率が５７.８％であるのに対し、高石市は５１.３％であり、6.5ポイント下回った。

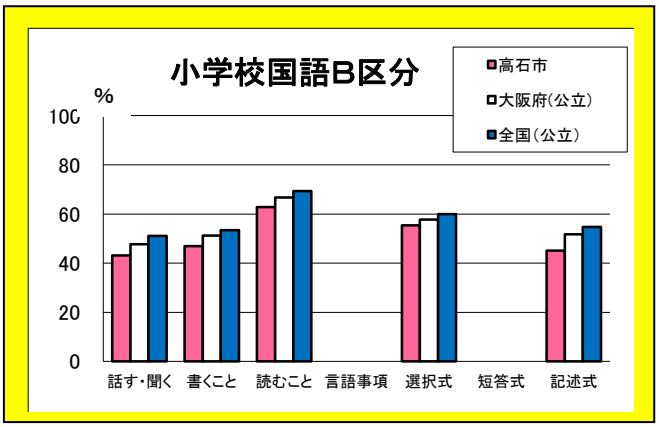
◆大阪府の平均正答率は、５５.４％であり、4.1ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より３.８ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略標記しています。

Ｂ区分に見られる傾向について

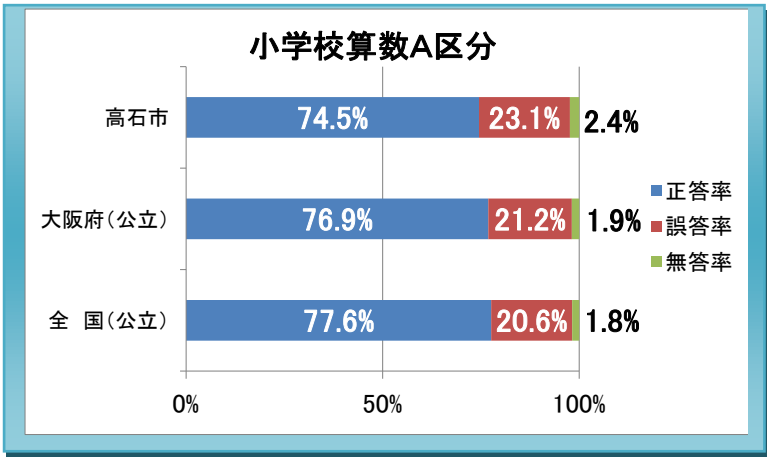
◆Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では、全１０問中０～５問正答した人の割合が、全国よりも多くなっており、活用力の底上げが課題として挙げられます。

◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。

◆設問別にみると、「グラフを基に書いた内容として適切なものを選択する」問題では、正答率が全国より高く、「資料の情報を読み取る力」に一定の改善が見られます。しかし、その他の設問では、正答率が全国よりも低い傾向がみられます。特に、「自分の考えを書く」問題（P.15 参照）の正答率が全国との差が大きく、「文章表現をする力」に課題があります。

◆無答率については、全国よりも数値が高くなっています。特に、記述式の問題における数値が高くなっており、「問題の意図に応じて、文章表現をする力」に課題があります。

小学校算数（Ａ区分）結果から見えてくる課題



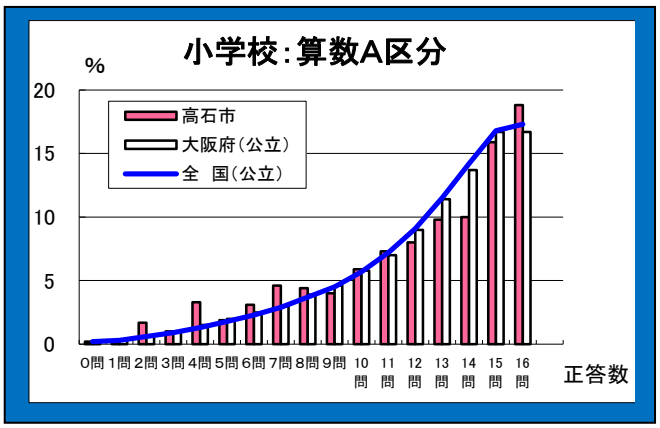
Ａ区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が７７.６％であるのに対し、高石市は７４.５％であり、3.1 ポイント下回った。

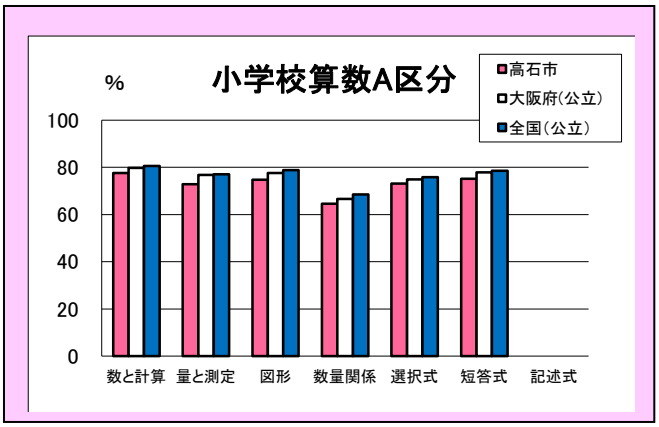
◆大阪府の平均正答率は、７６.９％であり、２.４ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より０.６ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



Ａ区分に見られる傾向について

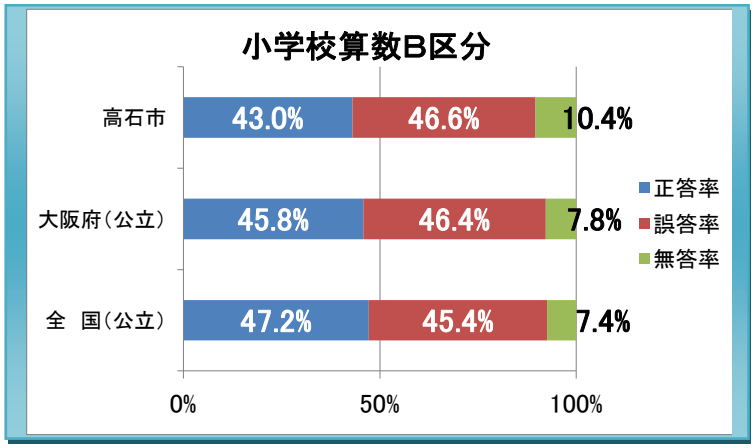
◆Ａ区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、１６問全問正答した人の割合は、全国よりも多くなっていますが、２～８問正答した人の割合は、全国よりも多くなっており、依然として基礎・基本の定着に課題があります。

◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。

◆設問別にみると、「数と計算の知識、理解」を問う問題で、正答率が全国より高い問題もあり、一定の成果がみられます。しかし、その他の設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。特に、「末尾の位のそろっていない小数の加法の計算」「示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める」問題で、全国の正答率との差が大きくなっており、「問題を適切に読み取り、処理する力」に課題があります。

◆無答率については、全国よりも若干数値は高くなっています。特に、「単位量当たりの大きさの求め方」「割合の基準量と比較量の関係」を問う問題における数値が高くなっており、「問題の意味を読み取る力」に課題があります。

小学校算数（B区分）結果から見えてくる課題



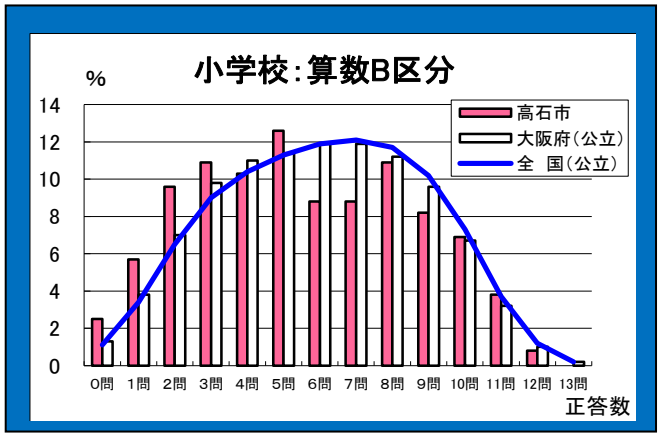
B区分問題（主として「活用」に関すること）

◆全国の平均正答率が４７.２％であるのに対し、高石市は４３.０％であり、４.２ポイント下回った。

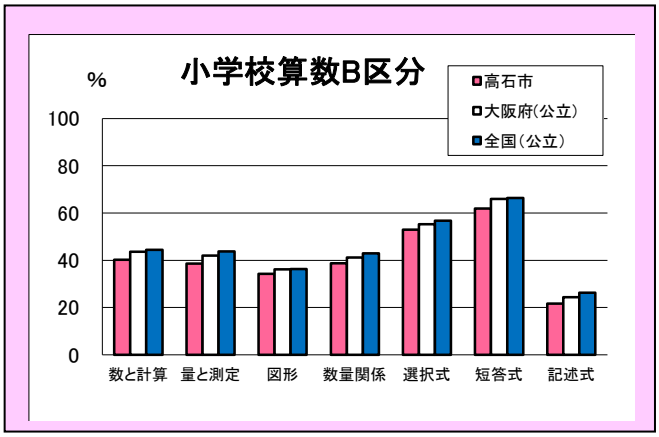
◆大阪府の平均正答率は、４５.８％であり、2.8ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より３.０ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



B区分に見られる傾向について

◆B 区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では、全１３問中、０～５問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、活用力の底上げが課題としてあげられます。

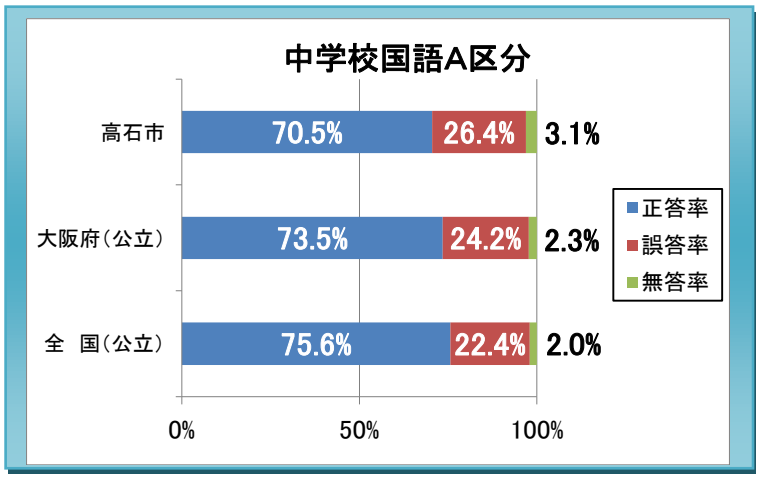
◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。しかし、「数と計算」「図形」の領域では、昨年度と比べて全国との差が縮まっており、一定の成果が見られます。

◆設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。特に、「示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場所に適用して、その説明を記述する」問題（P.16参照）で、全国の正答率との差が大きくなっており、「示された事象において、数学的に筋道立てて思考、判断、表現する力」に課題があります。

◆無答率については、昨年度より引き続き、全国よりも数値は高くなっています。特に、記述式の問題における数値が高くなっており、「数学的な事象を考察し、言葉や数・式で表現する力」に課題があります。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要　【中学校】

中学校国語（Ａ区分）結果から見えてくる課題



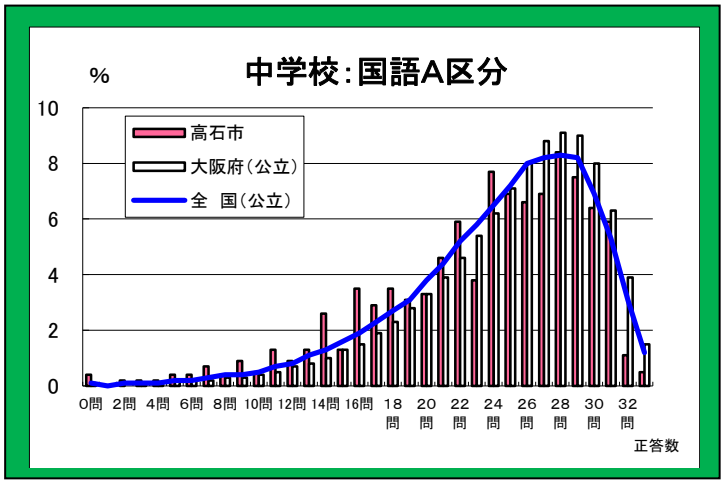
Ａ区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が７５.６％であるのに対し、高石市は７０.５％であり、５.１ポイント下回った。

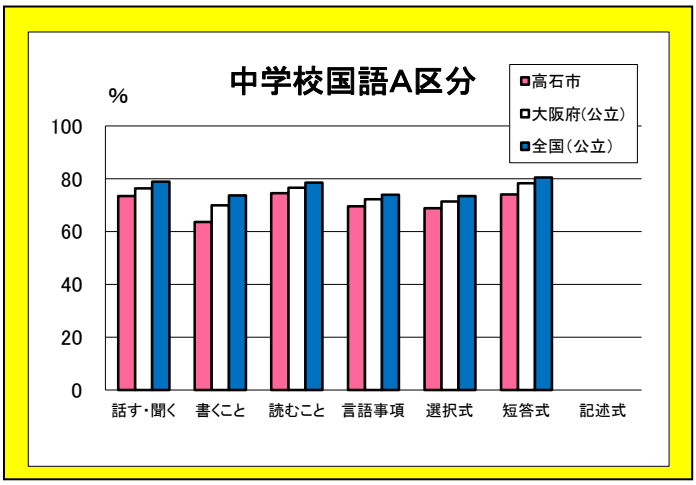
◆大阪府の平均正答率は７３.５％であり、３.０ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より、１.１ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略標記しています。

Ａ区分に見られる傾向について

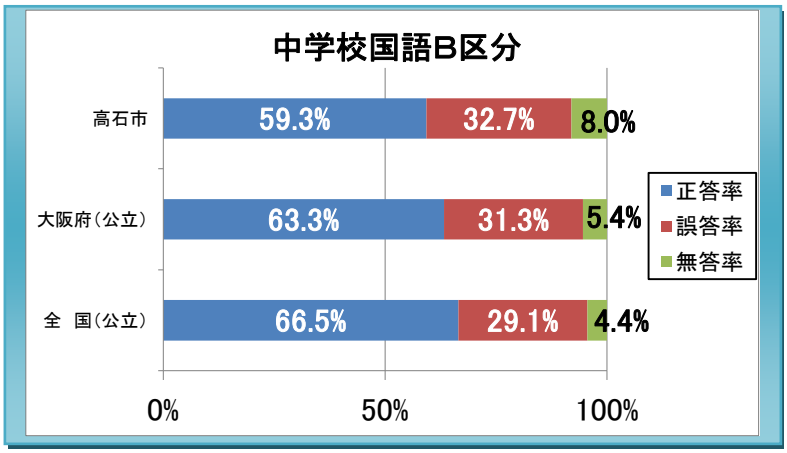
◆Ａ区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、全３３問中、０～７問正答した人の割合が全国より多く、基礎基本の定着について課題が見られます。

◆領域別にみるとすべての領域について、全国より低い正答率になっています。

◆設問別にみると、すべての問題において、全国より低い正答率になっています。特に、「質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く」問題の正答率が全国との差が大きく、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く力」に課題が見られます。

◆無答率については、全国よりも若干高くなっています。

中学校国語（B 区分）結果から見えてくる課題



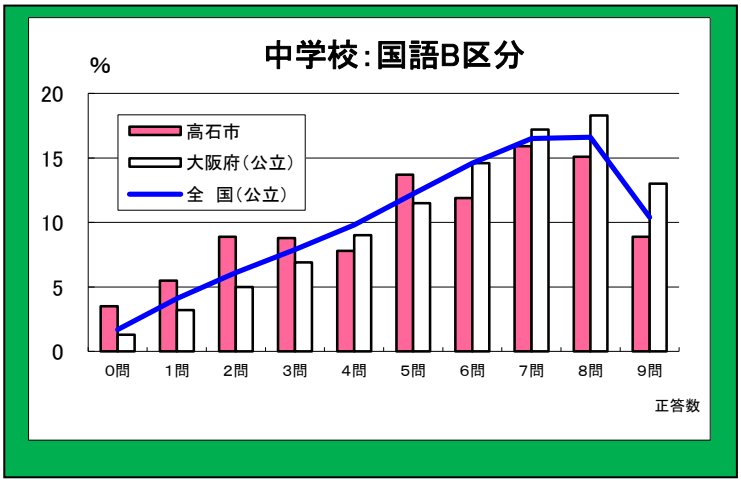
B 区分問題（主として「活用」に関すること）

◆全国の平均正答率が６６.５％であるのに対し、高石市は５９.３％であり、7.2ポイント下回った。

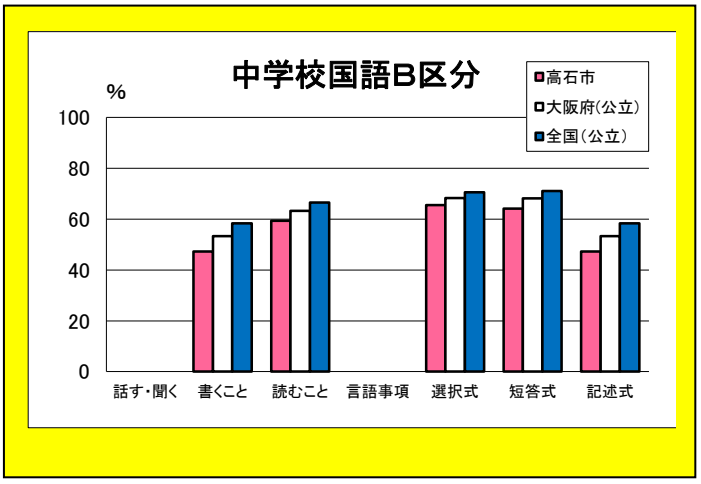
◆大阪府の平均正答率は ６３.３％であり、4.0ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より3.6ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略標記しています。

B区分に見られる傾向について

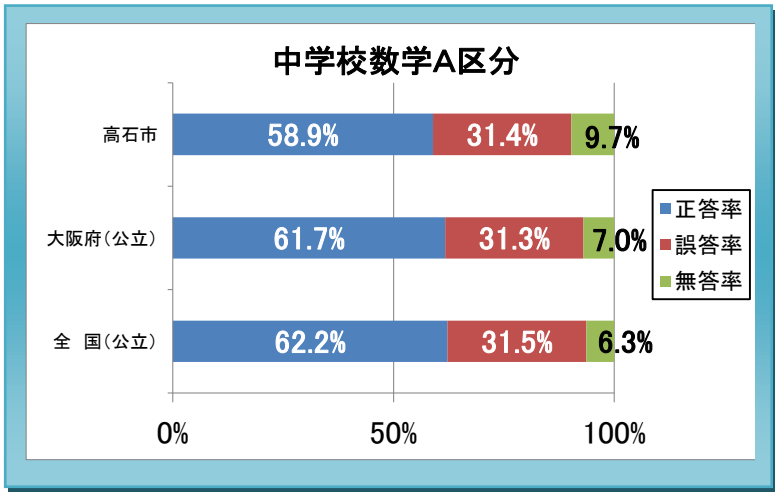
◆B 区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では全９問中０～３問正答した人の割合が全国よりも多く、活用力の底上げが課題として挙げられます。

◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。

◆設問別にみると、すべての問題において、全国より低い正答率になっています。特に、「根拠を明確にして自分の考えを文章で表現する」問題（P.17 参照）の正答率が全国との差が大きく、「自分の考えを具体的に書く力」に課題があります。

◆無答率については、昨年に引き続き全国よりも数値は高くなっています。特に、記述式の問題における数値が高くなっており、「問題の意図に応じて、自分の考えを具体的に書く力」に課題があります。

中学校数学（Ａ区分）結果から見えてくる課題



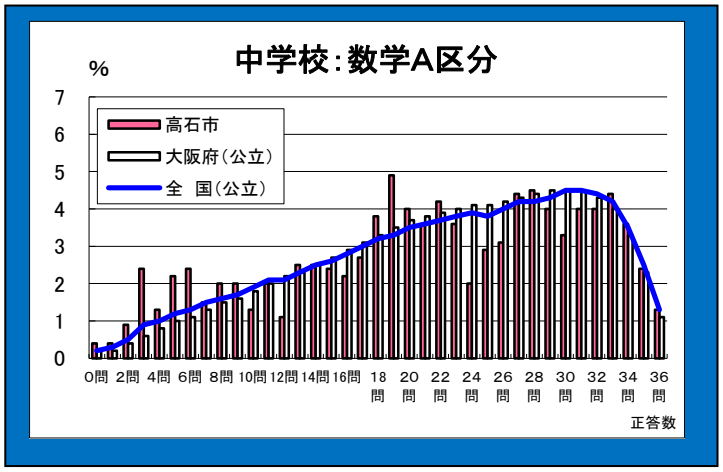
Ａ区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が６２.２％であるのに対し、高石市は５８.９％であり、３.３ポイント下回った。

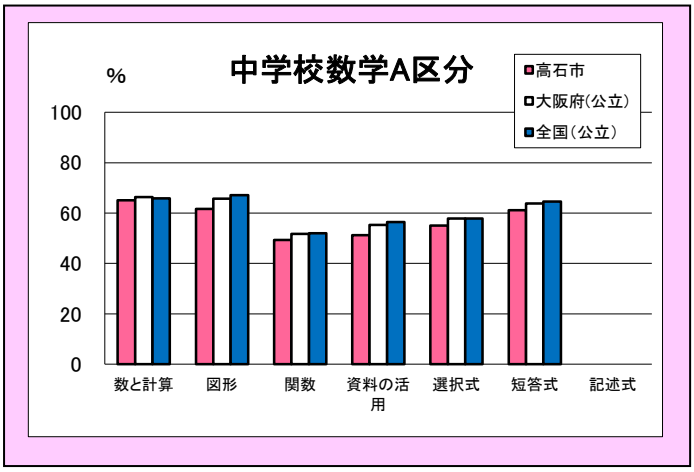
◆大阪府の平均正答率は６１.７％であり、２.８ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より３.４ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



Ａ区分に見られる傾向について

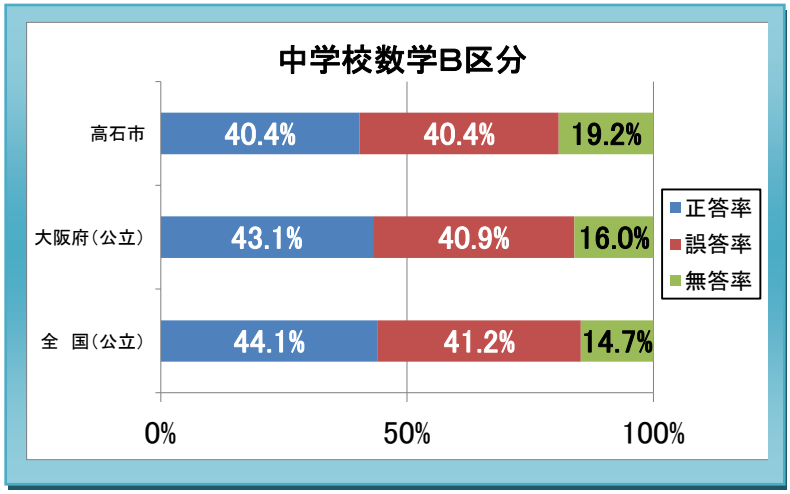
◆Ａ区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、全３６問中０～６問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、依然として、基礎・基本の定着に課題があります。

◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。

◆設問別にみると、各設問の正答率は全国より低い傾向が見られます。特に、「ある図形において成り立つ命題とその逆の命題との関係の理解をみる」問題の正答率が全国との差が大きく、「図形の性質を論理的に考察し表現する力」に課題があります。

◆無答率については、全国よりも高くなっており、課題が見られます。特に「文章表記された内容を文字式に表す」問題の無答率が全国との差が大きく、「文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする力」に課題があります。

中学校数学（B 区分）結果から見えてくる課題



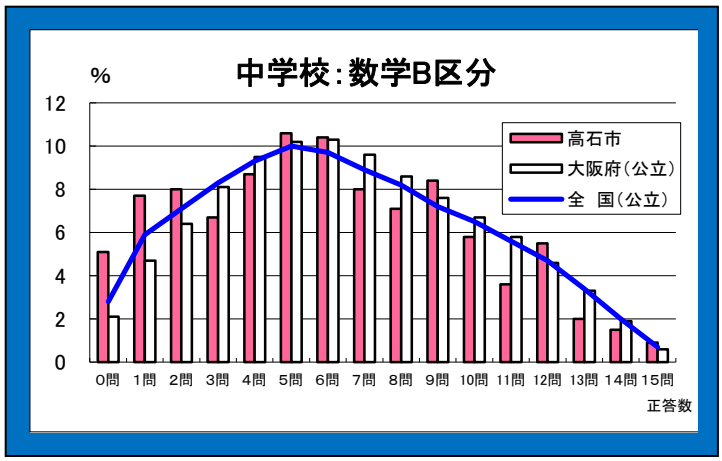
B 区分問題（主として「活用」に関すること）

◆全国の平均正答率が４４.１％であるのに対し、高石市は４０.４％であり、３.７ポイント下回った。

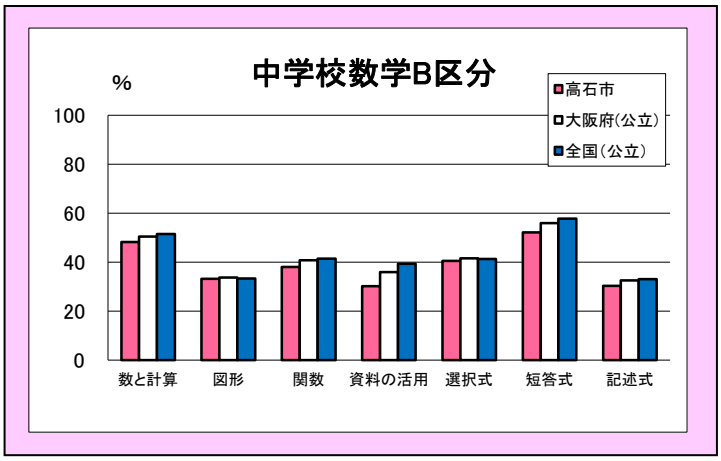
◆大阪府の平均正答率は４３.１％であり、２.７ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より４.５ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



B区分に見られる傾向について

◆B 区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では、全１６問中０～２問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、活用力の底上げが課題として挙げられます。

◆領域別にみると、図形の領域では、正答率が全国と同等になっていますが、その他の領域は、全国より低い正答率になっています。

◆設問別にみると、「数学的に適切ではない事柄について、資料を適切に読み取り、理由を説明する」問題（P.18 参照）において、正答率が全国との差が大きく、「判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力」に課題があります。

◆無答率については、全国よりも数値は高くなっています。特に「資料に表わされた情報から方程式を作る」問題の無答率が全国との差が大きく、「与えられた情報から必要な情報を選択し，数学的に表現する力」に課題があります。

質問紙調査の結果概要　結果から見えてくる課題

単位は、%

	質問項目		高石市			全国		
			H26	H27	H28	H26	H27	H28
①	朝食を毎日食べている	小	94.5	89.6	93.9	96.0	95.6	95.5
		中	93.9	93.4	91.6	93.5	93.5	93.3
②	自分にはよいところがある	小	71.9	70.6	67.5	76.1	76.4	76.3
		中	60.5	62.8	58.9	67.1	68.1	69.3
③	将来の夢や目標をもっている	小	83.8	86.1	83.4	86.7	86.9	85.3
		中	71.9	73.7	68.5	71.4	71.7	71.1
④	人の役に立つ人間になりたいと思う	小	90.6	92.4	91.0	94.0	93.7	93.8
		中	93.0	93.2	90.9	94.0	93.7	92.8
⑤	いじめはどんな理由があってもいけないことだ思う	小	93.3	96.3	95.2	96.4	96.2	96.6
		中	90.3	91.9	89.1	93.4	93.7	93.6
⑥	学校に行くのが楽しい	小	84.4	84.8	86.9	86.6	87.0	86.3
		中	79.6	86.7	82.9	82.4	82.1	81.4
⑦	学校のきまりをまもっている	小	76.3	81.8	86.1	90.5	91.1	91.5
		中	94.9	93.8	89.4	93.0	94.4	94.7
⑧	読書が好き	小	63.6	62.8	61.2	73.0	72.8	74.6
		中	56.6	54.6	53.1	69.4	67.9	69.9
⑨	学校の授業以外の読書時間が30分以下（月～金）	小	68.7	72.5	71.5	61.7	59.6	63.5
		中	72.8	75.5	77.5	68.5	69.3	71.8
⑩	１日あたり1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする。（月～金）	小	19.6	19.4	22.9	15.1	16.9	18.5
		中	55.9	54.8	55.6	56.4	47.6	47.8
⑪	家庭学習の時間が30分以下（月～金）	小	25.3	22.2	18.8	12.7	12.1	11.9
		中	18.4	19.5	22.4	14.7	13.9	14.4
⑫	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。	小	61.0	63.5	62.0	57.6	55.2	54.6
		中	70.0	71.3	73.1	67.2	64.4	62.8
⑬	国語の勉強は好きだ	小	51.0	57.5	51.9	59.2	61.1	58.8
		中	58.8	58.9	54.7	58.2	60.5	59.8
⑭	算数・数学の勉強は好きだ	小	55.9	64.9	58.8	66.1	66.6	66.0
		中	50.6	56.2	57.3	56.6	56.0	56.0

課題等について

⑥の項目は小中学校ともに全国と同等となり、小学校においては改善傾向にあります。
⑦の項目は、小中学校ともに全国よりも低い傾向が続いていますが、小学校においては差が縮まっています。
昨年度小学校で課題であった①の項目については、改善しています。「三つの朝運動」のリーフレットでの啓発や学校での食育の取組みの成果と考えられます。
⑧⑨の項目は全国より低い傾向が続いており、⑧の項目では、小中学校ともに全国との差が15ポイント程度開いています。今年度から、小中学校に学校司書が配置され、より一層読書活動の充実に向けた取組みを進めていきます。
②③④の項目は、小中学校とも全国より低く、引き続き小中９年間で系統立てたキャリア教育を推進し、自己肯定感を育む必要があります。
⑤の項目は、小中学校ともに昨年度よりも低く、いじめに対して認識が低く、いじめは絶対にゆるされないということを子どもたちに気付かせる取組みを今後も引き続き進めていきます。
⑫の項目は、、学習調査と同様に小中学校ともに全国よりも低く、課題があります。
⑬⑭の項目では、小学校において、全国よりも低い傾向にあります。中学校においては⑭の項目で全国を上回り、昨年に引き続き改善傾向にあります。

今後の取組みについて、P.14　を参照ください。

調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果は、

学力について、記述式の問題における誤答率、無答率が高い傾向があり、

「筋道立てた思考をし、自分の考えを書く力」

に依然として課題があることがわかりました。日々の学習指導の中で、

「事象を論理的に捉え、自分の考え等を説明する活動」

「伝えたい事柄と根拠とのつながりを明確にして書く活動」　　等

効果的な言語活動を取り入れた学習指導を充実させ、思考力、判断力、表現力の育成を目標とした取組みを進めていくことに努めていきます。

質問紙調査においては、

「学校に行くのが楽しい」

という項目について、小中学校ともに全国を上回っており、楽しく充実した学校生活を送れていることがわかりました。

その一方で、

「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間」

について、長時間使用する人の割合が、全国よりも非常に多いこと。また、

「家庭学習の時間」　「読書をする時間」

について、短時間しかしない人、全くしない人の割合が、全国よりも非常に多いことが、課題であることが分かりました。

学校で学んだことを定着させるためには、家庭学習にしっかりと取り組むことが大切です。また、学力についての課題である「筋道立てた思考」をするには、文章の内容を正確に読みとる力が求められます。文章を読み取る力は、読書量と大きく関わります。家庭学習の時間や読書をする時間を充実させられるよう、機会設定、啓発等に取り組んでいきます。

課題解決を行う方策としましては、平成２５年度から、各小・中学校において**学力向上大作戦**と銘打って、各学校の学力改善策を検討し、それに基づいた学力向上のための取組みを行っております。

今回の結果を受けて、上記の**「携帯電話やスマートフォンの使用」や「家庭学習・読書」の課題を重点**として、引き続き、ご家庭の協力をお願いします。また、次ページに、**家庭での過ごし方等、参考にしていただける資料及びワークシート**を掲載していますので、併せてご協力をお願いします。

【P.14 に各学校・高石市教育委員会の取組みと、地域・家庭の皆様にご協力いただきたい点をまとめて記載しております。】

今後とも高石市の教育にご理解、ご助力をいただきたく、また、地域・家庭の皆様と連携して高石市の子どもたちをよりよい方向に育んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

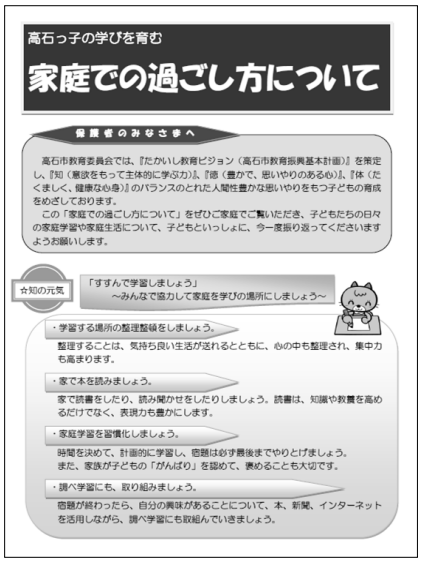
参考資料及びワークシート

◆各学校から出されている家庭学習のてびき等

◆高石っ子の学びを育む　家庭での過ごし方について

（高石市教育委員会から配布）

○ 小学校１年生から中学校３年生まで家庭学習を行う際にヒントとなるポイント等についてまとめてあるリーフレットです。



高石っ子の学びを育む

家庭での過ごし方について

保護者のみなさまへ

高石市教育委員会では、『たかいし教育ビジョン（高石市教育振興基本計画）』を策定し、『知（意欲をもって主体的に学ぶ力）』、『徳（豊かで、思いやりのある心）』、『体（たくましく、健康な心身）』のバランスのとれた人間性豊かな思いやりをもつ子どもの育成をめざしております。

この「家庭での過ごし方について」をぜひご家庭でご覧いただき、子どもたちの日々の家庭学習や家庭生活について、子どもといっしょに、今一度振り返ってくださいますようお願いします。

☆知の元気　「すすんで学習しましょう」 ～みんなで協力して家庭を学びの場所にしましょう～

・学習する場所の整理整頓をしましょう。
整理することは、気持ち良い生活が送れるとともに、心の中も整理され、集中力も高まります。

・家で本を読みましょう。
家で読書をしたり、読み聞かせをしたりしましょう。読書は、知識や教養を高めるだけでなく、表現力も豊かにします。

・家庭学習を習慣化しましょう。
時間を決めて、計画的に学習し、宿題は必ず最後までやりとげましょう。
また、家族が子どもの「がんばり」を認めて、褒めることも大切です。

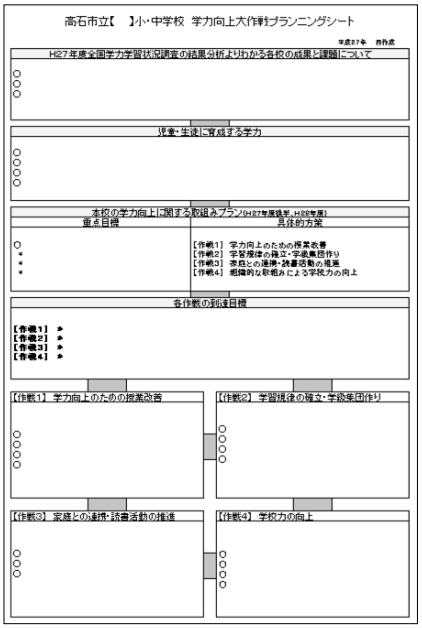
・調べ学習にも、取り組みましょう。
宿題が終わったら、自分の興味があることについて、本、新聞、インターネットを活用しながら、調べ学習にも取組んでいきましょう。

◆高石市小中学校授業改善プランについて

（高石市ＨＰに掲載）

○ 学力・学習状況調査の結果分析より、各小・中学校における学力向上に対する取組みを掲載しています。

各学校が学力向上に向けて、どのように取組んでいるか、一度ご覧ください。



高石市立【　】小・中学校　学力向上大作戦プランニングシート

平成27年　月作成

H27年度全国学力学習状況調査の結果分析よりわかる各校の成果と課題について

児童・生徒に育成する学力

本校の学力向上に関する取組みプラン(H27年度後半、H28年度)

重点目標	具体的方策
○ ・ ・ ・	【作戦1】 学力向上のための授業改善 【作戦2】 学習規律の確立・学級集団作り 【作戦3】 家庭との連携・読書活動の推進 【作戦4】 組織的な取組みによる学校力の向上

各作戦の到達目標

【作戦1】 ▶
【作戦2】 ▶
【作戦3】 ▶
【作戦4】 ▶

【作戦1】 学力向上のための授業改善

【作戦2】 学習規律の確立・学級集団作り

【作戦3】 家庭との連携・読書活動の推進

【作戦4】 学校力の向上

◆ケータイ・スマホの使い方について

（高石市教育委員会から配布）

○ ケータイ・スマホ使用の家庭でのルールづくり・学校への持ち込み禁止等、使い方についてまとめてあるリーフレットです。

保護者の皆様へ　　高石市教育委員会

学校にケータイは
必要ありません！

タブレット端末や携帯電話・スマートフォン（以下「ケータイ」と表記）等の情報機器は、上手に使うと私たちの日常生活や仕事に役立つ、便利で楽しい道具です。

しかし、ケータイを子どもたちに持たせることで、子どもたちの世界が大きく変わり、様々なトラブルに巻き込まれるケースが発生しています。また、長時間の使用により学習時間が減少し・学力の低下につながることも心配されています。

このような状況を踏まえ、高石市教育委員会では、**小中学校への児童・生徒のケータイの持ち込みを原則禁止**としています。

子どもたちが情報機器を使う際、時間制限を設けることや、有害サイトは閲覧できないようフィルタリング設定を行う等のルール作りをして適切に使用することが大切です。情報モラル教育は、家庭での取り組みが学校教育以上に大切です。子どもに要求されるがままにむやみに買い与えるのではなく、使用目的や危険性、ルールやマナーについて、各家庭においてしっかりと話し合いましょう。現在のケータイは、単なる「電話」ではなく「インターネット端末」でもあることを踏まえ、本当に子どもに持たせる必要があるのか、どうしてもケータイがないとダメな状況があるのか、よく考えてみてください。

保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。

〔高石市立小中学校内でのケータイの取り扱いについて〕

★学校への児童・生徒のケータイの持ち込みは原則禁止です。

子どもを守るのは　あなたです！

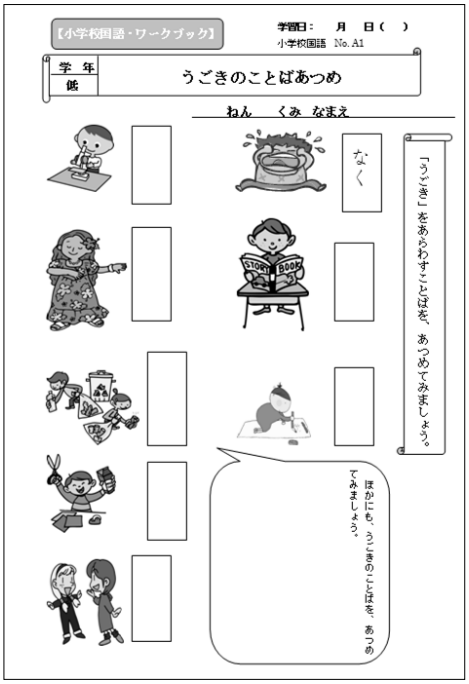
平成28年 4月
高石市教育委員会

◆自学自習力をはぐくむ　ワークブック問題

（大阪府教育委員会が配信）

○　小・中学校全学年の児童生徒が、放課後学習や家庭学習において自主的に　学習することができる教材です。

各学校でも活用しています。



ＨＰアドレス

http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm

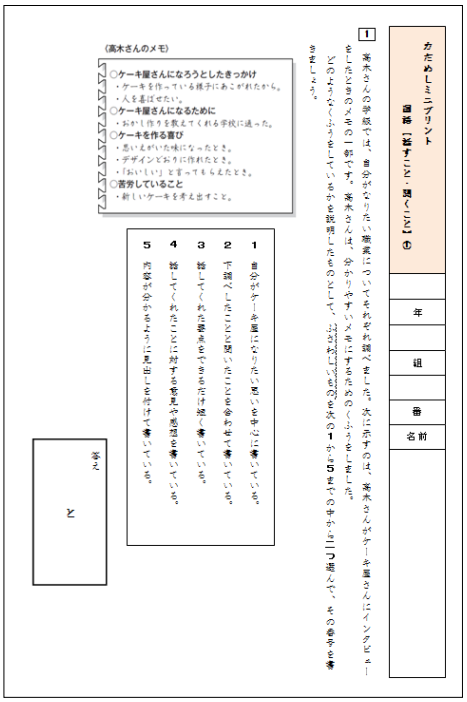
◆力だめしプリント・力だめしミニプリント

（大阪府教育委員会が配信）

○ 小・中学校の児童生徒に身につけさせたい学力の中で、

知識・技能を活用する力を問う学習教材です。

各学校でも活用しています。



ＨＰアドレス

http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikaramini/index.html

高石市教育委員会及び学校の取組み

☆　教育委員会が中心となって取り組んでいること

◈各学校が立てた「学力向上大作戦」(P.12 参照)に基づいて、児童生徒が主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進していくために、示範授業の実施や指導助言等、指導主事が継続して学校を支援しています。
◈学力向上専門員が各学校の授業を参観し、児童生徒への実践的指導力、学校体制づくり等の指導を行い、各校の授業改善に努めています。
◈各学校に、学校司書を配置し、児童生徒の情報を活用する力の育成を支援しています。併せて、読書活動の推進も支援し、公共図書館との連携も図っています。
◈児童生徒が主体となる授業、わかりやすい授業を推進していけるように、各学校にタブレット端末、デジタル教科書を導入し、効果的なICT機器の活用に向けた研修の実施等、学校を支援しています。
◈外国語教育を推進することにより、子どもたちのコミュニケーション力の素地を育むとともに、児童、生徒と外国人留学生との交流等を通して、実践的に外国語を学ぶ機会を増やします。
◈ 小中連携として、中学校区での交流や合同の研修会を実施し、幼小中で系統立てたキャリア教育の推進を図っています。
◈3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)の取組みを継続しています。
◈放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。

☆　各学校が現在取り組んでいること

◈指導内容・指導方法の工夫の推進
・児童生徒が主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進していくために、指導主事による示範授業や指導助言等の支援をうけ、授業改善に対する取組みの充実
・調査から見える成果と課題を踏まえ、「学力向上大作戦」をもとに、学力向上に対する取組みの改善
・習熟度別授業を取り入れた、少人数指導や複数教員による指導等、きめ細かな指導の充実
・言語活動を充実させた、児童生徒のコミュニケーション能力の育成をめざした授業の研究
・効果的にICT機器を活用した授業の実践・研究
・大阪府教育センター・大学等外部講師による指導・助言
◈学習におけるつまずきの把握と補充指導の充実
・放課後学習の実施
・長期休業期間中の学習会の実施
・「家庭学習のてびき」の作成、配布
◈学校司書を活用した学習、読書活動の一層の推進と充実
◈チャイム着席など学習規律の徹底を図る取組み
◈あいさつ運動など基本的生活習慣の向上のための取組み
◈一人ひとりが尊重される集団づくりの実現
・人権教育及び道徳教育のさらなる推進

（上記の内容は必ずしも全学校で取組んでいるのではなく各小中学校が実態に応じて取組んでいます。）

地域・家庭にご協力いただきたいこと

◈各校における「家庭学習のてびき」等を参考にしていただき、子どもたちの宿題の確認や、学校の予習・復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
◈携帯電話・スマートフォンやゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子どもと話し合っていただきたいと思います。
◈ご家庭における読書の機会向上や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
◈「他人を認め、自分を大切にする」こと（自己有用感）の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いいたします。
◈家庭のご協力により、質問紙の「朝食を毎日食べている」の項目について改善傾向がみられました。毎日朝食を摂って、朝からしっかり学習活動に取り組めるよう、引き続きご協力をお願いします。
◈学校のさまざまな学力向上等の取組み（授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等）についてご協力をお願いします。
◈ＰＴＡ活動へのご参加とご協力をお願いします。
◈各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。

平成２８年度　全国学力・学習状況調査の結果より

本市の児童・生徒に課題が見られた設問について

小学校国語

2

六年一組の高野さんの学級では、健康な生活のために「早ね早起き朝ごはん」運動に取り組んでいます。高野さんは、これまでの活動の結果を報告文にまとめ、学級のみんなに伝えることにしました。次は、高野さんが書いている【報告文の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告文の一部】

〇「早ね早起き」活動のまとめ

1　成果

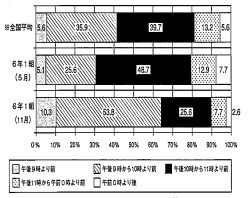
アンケート調査の結果、これまでの半年間の活動が成果を上げていることが分かりました。

〈図１〉のように、活動を始める前の五月の時点では、「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合が全国平均を上回り、早ねができているとはいえませんでした。それが半年間の活動後には、夜十時までにねる人の割合が［A］。

その理由として、〈表１〉から、「成長に大事なすいみんを十分にとるために、夜十時までにはねましょう。」という保健室の先生のお話がみんなの心に残ったのだと考えます。他にも、毎日体を動かすように、体育がない日にクラスで外遊びを行う活動や、「健康せんげんカード」に早ね早起きができたかを記録する活動を行ったこともあげられます。

〈図１〉

次の日に学校がある日は，ふだん何時ごろにねますか。



（※全国平均は、文部科学省「平成28年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究―報告を中心とした生活習慣と子育ての生活等との関係性に関する調査―」に基づく。）

2　課題

成果があった一方、生活のリズムを保つという点で、今回の活動では改善できず、これから解決していきたい課題があることが分かりました。

課題は〈図２〉から分かるように、［B］

この課題を解決するためには、テレビやゲームの時間、メールなどをする時間、そして「健康せんげんカード」の記録方法について考える必要があることが〈表２〉から分かります。

3　解決方法

そこで、わたしたちは多くの人が取り組める次のような解決方法を考えました。

・［C］

・休みの日にも「健康せんげんカード」に記録をつけるようにする。

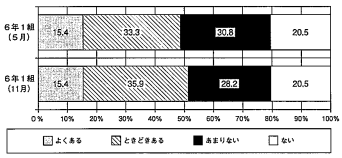
今後は、これらの解決方法に取り組んでいきたいと思います。

〇「朝ごはん」活動について

～（報告文が続く）～

〈図２〉

次の日に学校がない日は，学校がある日に比べて，ねる時刻が２時間以上おそくなることはありますか。



〈表２〉

ねる時刻が２時間以上おそくなる理由は何ですか。（いくつ答えてもかまいません。）（６年１組　11月）

夜おそくまでテレビを見たり，ゲームをしたりしているから。	20人
夜おそくまで友達とメールなどをしているから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくてもいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	4人
その他	7人

〈表１〉

早ねをするようになった理由は何ですか。（いくつ答えてもかまいません。）（６年１組　11月）

保健室の先生のお話から，すいみんが成長に大事だと分かったから。	23人
毎日体を動かしたら，早くねられるようになったから。	14人
「健康せんげんカード」に記録するから。	9人
早ねを毎日続けるようにしたら習慣になったから。	8人
早ねをしたら授業に集中できるようになったから。	5人
その他	11人

二　高野さんは、「２　課題」と「３　解決方法」について書こうとしています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1)　高野さんは、「２　課題」について〈図２〉を用いて書こうとしています。［B］の中に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

〇〈図２〉の結果から考えて書くこと。

〇　書き出しの言葉に続けて、四十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

課題は〈図２〉から分かるように、

60字　40字

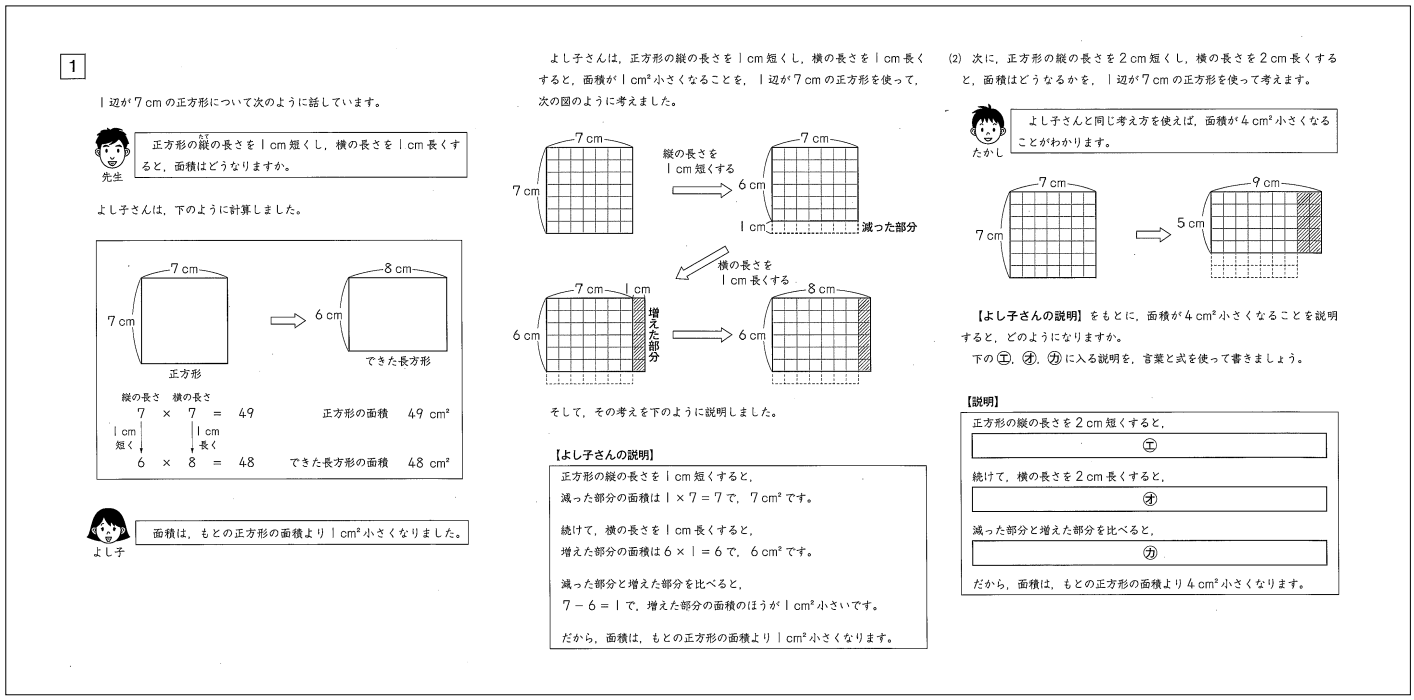
解説　Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）2－二（１）

目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題です。

自分の考えを説得力をもって伝えるためには、図表やグラフなどを用いて、事実や結果などの根拠を示しながら自分の考えを記述する力が必要になります。

図表やグラフなどから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり関係づけたりしながら自分の考えを明確にすることに課題がみられます。

小学校算数



1

1辺が7cmの正方形について次のように話しています。

先生：正方形の縦の長さを1cm短くし，横の長さを1cm長くすると，面積はどうなりますか。

よし子さんは，下のように計算しました。

よし子：面積は，もとの正方形の面積より1cm²小さくなりました。

よし子さんは，正方形の縦の長さを1cm短くし，横の長さを1cm長くすると，面積が1cm²小さくなることを，1辺が7cmの正方形を使って，次の図のように考えました。

そして，その考えを下のように説明しました。

【よし子さんの説明】

正方形の縦の長さを1cm短くすると，
減った部分の面積は1×7＝7で，7cm²です。

続けて，横の長さを1cm長くすると，
増えた部分の面積は6×1＝6で，6cm²です。

減った部分と増えた部分を比べると，
7－6＝1で，増えた部分の面積のほうが1cm²小さいです。

だから，面積は，もとの正方形の面積より1cm²小さくなります。

(2) 次に，正方形の縦の長さを2cm短くし，横の長さを2cm長くすると，面積はどうなるかを，1辺が7cmの正方形を使って考えます。

たかし：よし子さんと同じ考え方を使えば，面積が4cm²小さくなることがわかります。

【よし子さんの説明】をもとに，面積が4cm²小さくなることを説明すると，どのようになりますか。
下の㋓，㋔，㋕に入る説明を，言葉と式を使って書きましょう。

【説明】

正方形の縦の長さを2cm短くすると，
㋓
続けて，横の長さを2cm長くすると，
㋔
減った部分と増えた部分を比べると，
㋕
だから，面積は，もとの正方形の面積より4cm²小さくなります。

解説　B区分（主として「活用」に関する問題）1－（2）

面積が1㎠小さくなることの説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を言葉と式を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

算数の学習では、どのようなきまりが成り立つのかを予想したり、数値や場面を変えても同じようにきまりが成り立つのかを考えたり、なぜそのようなきまりが成り立つのかを説明したりする力が必要です。

算数の問題場面で見いだした考えを活用して、条件を変更した場合について発展的に考察することに課題がみられます。

中学校国語

1 次の【博物館のちらし（表）】と【博物館のちらし（裏）】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【博物館のちらし（表）】

【博物館のちらし（裏）】

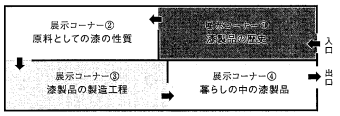
「伝統文化」というと遠い存在のように感じられますが，実は今の暮らしの様々なところに息づいています。

「暮らしの中の伝統文化展」の第１期は，「うるしの世界」を取り上げます。私たちの暮らしの中にある漆のよさを実感してみませんか。

うるしの世界

おわんや重箱などに代表される漆製品は，優美なだけでなく，丈夫で長持ちする実用性の高さも兼ね備えており，私たちの暮らしの中で育まれてきたものです。

展示内容（１階展示室）



関連イベント

～漆製品を使ってみよう～

漆の器とスプーンでアイスクリームを味わいます。また，使用後の手入れの仕方も体験できます。漆の器の美しさや手触りのよさなどを感じてみませんか。

日時：開催期間中の土曜日
午後３時－午後４時
場所：１階特別室
定員：20名（無料・当日受付）

～職人の技を見てみよう～

この道30年の職人による漆塗りの実演を見ることができます。交流する時間もありますので，伝統を受け継ぐ職人としての思いなどを直接聞いてみませんか。

日時：開催期間中の日曜日
午前10時－午前11時
場所：１階ホール
定員：50名（無料・当日受付）

三 【博物館のちらし（表）】と【博物館のちらし（裏）】には，それぞれどのような表現の工夫がありますか。また，それらにはどのような効果があると思いますか。あなたの考えを，次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

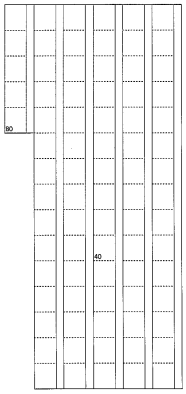
なお，読み返して文章を直したいときは，二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「表は，……。裏は，……。」という形で書くこと。

条件2 表現の工夫と，その効果を具体的に書くこと。

条件3 四十字以上，八十字以内で書くこと。

※ 左の枠は，下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。



解説　Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）1－三

文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる問題です。

この問題では、文章の構成や展開、表現の仕方について考える力が必要になります。

資料に書かれた文章の構成や展開、表現の仕方に着目し、その目的や意図、効果について考え、具体的に書くことに課題がみられます。

中学校数学

5 あるボウリング場では，貸し出し用の靴をすべて新しいものに買い替えようとしています。そのために，貸し出し用の靴の総数や，過去1か月間に靴が貸し出された回数について調べました。

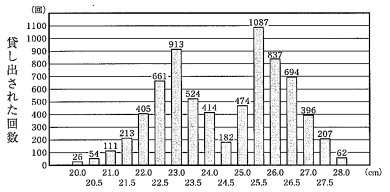
調べたこと

○ 貸し出し用の靴の総数　200足

○ 貸し出された回数の合計　7260回

○ 貸し出された靴のサイズの平均値　24.5 cm

○ 靴のサイズごとの貸し出された回数のグラフ



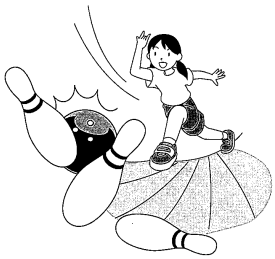
上のグラフから，例えば，23.5 cmの靴は524回貸し出されたことがわかります。

調べたことをもとに，どのサイズの靴を何足買うかを考えます。

次の(1)，(2)の各問いに答えなさい。

(1)「貸し出された靴のサイズの平均値である24.5 cmの靴を最も多く買う」という考えは適切ではありません。その理由を，調べたことのグラフの特徴をもとに説明しなさい。

(2) 25.5 cmの靴を何足買うかを考えるために，25.5 cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求めます。その相対度数を求める式を書きなさい。ただし，実際に相対度数を求める必要はありません。



解説　B区分（主として「活用」に関する問題）5－(1)

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題です。

実生活の場面で、資料やグラフなどを適切に読み取り、それらを基に判断の理由を説明することが求められる場合があります。その際、ヒストグラムなどのグラフや代表値を用いて資料の傾向を捉え説明する力が必要になります。

資料から必要な情報を適切に選択し、傾向を的確に捉え、事象の根拠を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられます。